

相川春喜 あしかは ともよ 技術史家。明治四十一年八月十五日新潟縣高田市南上橋生れ、昭和二十八年四月二十九日歿（一九九一—三三）。本名矢浪久雄。昭和四年第四高等學校文科卒業試験後ハ雑誌「廣場」事件ハ退學處分となる。上京シテ早稲田第一高等學院ハ入學シ、プロレタリア文化運動ハ参加シテ檢舉セラレ、學院からも除名。七年唯物論研究会ハ加ハリ研究組織部副部長トナリタ。また岡邦雄等と技術概念を廻リテ論争。翌年岩波書店の「日本資本主義發達史講座」ハ「農村經濟と農業恐慌」を執筆、更ハ雑誌「歴史科學」、「唯物論研究」等ハ論文發表。十一年コム・アカデミー事件ハ檢舉セラレ翌年釋放。爾後二年間執筆禁止中岩波書店校正部ハ囑託トシテ勤務。次ハ同盟通信社囑託、明治大學講師を経テ、十九年應召。戰後シベリアハ四年間加留、この間ハ本人捕虜民主化運動の機關紙「日本しんぶん」の論説を擔當シタ。歸國後日本共產黨本部ハ活動中送逝。

著書ハ「歴史科學の方法論」（昭和十年七月十五日白揚社）、「技術論」（昭和十一年八月十八日ニ堂書房「唯物論全書」）、「文化叢書論」（昭和十九年九月十五日霞ケ關書房）等。「相川春喜小傳」（昭和二十年四月二十九日相川春喜小伝刊行会）がある。



相川春喜小傳

